

海南古道まつり

第十五回「熊野・高野」短歌・俳句大会作品集

やまなみ参詣

春日風鈴まつり

。日時 令和二年八月一日

。場所 和歌山県海南市

「春日神社」にて作品発表



悠久の道 ー熊野古道ー

寺杣茂雄／作詞　那賀ひろし／作曲　井上善日居／編曲

やまぐちさとよ
山口智世 唄

ELT-8A 2004.6.30

Eight Long Karaoke Co.

一、熊野三山 修行道しゅぎょうみち

苔むし登る わらじ坂

木立を抜ける 風は秘めやかに

山河を旅する 那智の滝

ああ、熊野古道は

心の故郷よ

二、
九十九王子つづらおうじ
参詣さんもうで

険しき道は 愛の道

幾千年の蟻の熊野路は

深山に広がる 大自然

ああ、熊野古道は

歴史を辿り行く

三、紀伊の山並み 奥深く

愛する人の足跡は

極樂浄土 夢の祈り道

聖地を巡って 高野山

ああ、熊野古道は

世界の宝物

演奏時間 4分23秒



参 詣 集



選者のことば

水 本 光

春日神社主催の世界遺産「熊野・高野」の短歌大会に、今回も多くの作品を寄せていただきありがとうございます。

空海が高野山を開くにあたって拠点とした天野。高野町石道の六本杉から南へくだると天野の丹生都比売神社の前に出ます。

天野の里は、女人禁制であつた高野山へ行けない女人たちが、心の安らぎをもとめて住みついた場所でもあります。語り継がれてきた女人哀話や、心に触れる墓石や史跡が多く残されています。天野は蛍が飛び、品質のよい黒大豆の稔る里でもあります。

天野にて

女人哀話伝へて天野隠れ里西行の田に螢火の舞ふ
横笛は享年十九伝承と歴史するりとぬけて木漏れ日

結びに、皆様方のご健勝とご健詠をお祈り申し上げ、これからもご応募いただけることをお願い致します。



選者のことば

杉谷睦生

本年度も、また、多くの方の短歌作品に出会い「熊野・高野」への熱い思いに触れとても嬉しく思いました。又、みなさんの作品から熊野・高野の神々への畏敬の念が、ひしひしと伝わって来ました。

「熊野・高野」を抱く和歌山県民であることに誇りと喜びを抱きつつ、これからも短歌の道に、みなさんと共に、学びを頑張って行きたいと心より願っています。

じいと孫パパも現わる川風呂に男三代星がまたたく

山続く高野竜神木の国の自然の力せまり来る旅

そして、我故郷、和歌山をみつめる機会を頂き、短歌愛好者を広げて頂く海南古道まつりの春日神社様に心からお礼申しあげます。

〔熊野〕大賞

神社本庁統理賞

和歌山県橋本市 千葉ひとみ

緞帳を天より降ろすごとくにも月の明かりに落ちてゆく滝

和歌山県神社庁長賞

和歌山県和歌山市 野入 博史

小辺路来て見る伝説の石仏は悲話にあれども頬笑むばかり

〔熊野〕優秀賞

熊野本宮大社賞

和歌山県田辺市 龍田 早苗

み熊野の山を駆けゆく雲の影窓辺の席にコーヒーを待つ

熊野速玉大社賞

山口県周南市 森元 輝彦

遠山に雪移りゆくをいぶかしむ熊野に紙を漉く君がゐる

熊野那智大社賞

大阪府泉佐野市 岡本炎弥子

冬瀑を借景として札所あり乾ぶ柱は冬陽を集む

〈熊野〉松代王子賞

汐見坂いっ気に下りて深呼吸木木の香匂う春日の森に

和歌山県海南市 橋本 吉信

和歌山県湯浅町 兵野 勉

伊太祁曽の熊野古道に桃花咲き紀伊一之宮木祭の典

山口県周南市 森元 輝彦

杉透きてひかる童子の青く立つしんと五月のさみどりの羊齒

千葉県市川市 山本 明

半歩ずつ熊野古道の馬殺し杉の落葉をきつきつと踏む

和歌山県和歌山市 高岡 淳子

杖二本たよりに古道の根みちゆく木立のあひに抜くる青空

和歌山県岩出市 梶本 洋子

日の射せる熊野古道に幾世なる落葉の嵩の薫り輝く

和歌山県和歌山市 松田 容典

熊野道苔むす地藏に寄り添いて百合の一輪ひっそりと咲く

〈熊野〉選者賞

水本 光 選

和歌山県橋本市 千葉ひとみ

緞帳を天より降ろすごとくにも月の明かりに落ちてゆく滝

杉谷 睦生 選

和歌山県田辺市 龍田 早苗

万物を熊野の森にしずめ込みスーパームーンは連山照らす

〈高野〉大賞

神社本庁統理賞

和歌山県和歌山市 野入 博史

逝く人の御霊が映すまぼろしか苔むす碑影をゆらす木洩れ日

和歌山県神社庁長賞

和歌山県白浜町 木下 正博

ふりむけど西行おらずかげろうの天野の里にさくら散るなり

〈高野〉優秀賞

高野山金剛峯寺賞

和歌山県海南市 倉本 郁子

片仮名の石童丸の絵解本読書好みの芽生えとなりき

丹生都比売神社賞

和歌山県海南市 杉本 静子

杉落葉たく高野山にはのぼのと香煙となり木の間ただよふ

丹生官省符神社賞

福岡県大牟田市

林

昌子

百度踏む素足冷たき石畳ひとりに広し夜の御廟前

〔高野〕金剛院賞

大分県国東市

原 ひろし

女人堂八葉蓮華の峰辿り巡り巡りき女人の高野

和歌山県橋本市

浦木 逸子

戦国の世を戦ひし武将たち共に眠れり高野奥津城

東京都新宿区

貞住 昌彦

霧深き千古不易の杉木立大師が祈り天に地にあり

山口県周南市

野村 貞江

幾千万祈りの道を我も又踏みしめ歩む夕日背負いて

和歌山県海南市 森田瑠璃子

「高野山行って来ました」見覚えの文字添えられて焼餅置かる

静岡県浜松市 河田 琴栄

雪笠を被けて祈る僧のごと奥の院へと並める灯籠

〈高野〉選者賞

水本 光 選

和歌山県白浜町 木下 正博

ふりむけど西行おらずかげろうの天野の里にさくら散るなり

杉谷 睦生 選

和歌山県橋本市 松山 康子

散華まき青葉祭りの輿がゆく善男善女群がりながら

短歌

— 熊野 —

人知れず人間なんて人間よ立つを見すてて行きつ戻りつ
あかさたなイロハニホヘトチリヌルヲ人の情けや熊野路さやか
椎の木に取り付く蟬はわたしやもデジャブの中の古道を歩む
いくつものおとぎ話は終わりゆき熊野古道の木漏れ日と化す
汐見坂いっ氣に下りて深呼吸吸木木の香匂う春日の森に
大野ヶ原頭を垂るる稲穂らは昔の穀倉地今はいずくぞ
「且来くる」男の子の言の葉泣く女の子古道伝いに残りし地名
春日社の松代王子の眠る地は願い果せず御霊はここに
春まだし娘婿なる米人の若者と行く熊野岨路
米人の婿と日なかを歩み行く熊野古道のうら寒き風
九年前樂に上りし大門坂喜寿に杖曳き熊野詣す
大楠の葉先に小さき滴二個かがよう朝の虹色美しく
七十に至れど新人前に出てまだまだ枯れず賞を狙いぬ
記銘力ほとんどゼロだと思ふ日も紹介される人の群れ来る
速玉社発ちて大辺路百三十キロ熊野黒潮ウルトラマラソン
伊太祁曽の熊野古道に桃花咲き紀伊一之宮木祭の典
額づけと巖に足を取られつつ鎖よすがに詣でる社
峯々を詠みつつ辿る熊野路に定家も見しや苔のしるべを
緞帳を天より降ろすごとくにも月の明かりに落ちてゆく滝
はるかなるものにひかれて森に入る闇より我に注ぐ目のあり

福岡 悟（東京都八王子市）

瀬戸内 光（山口県光市）

橋本 吉信（和歌山県海南市）

尾崎 元昭（和歌山県和歌山市）

上田 康彦（千葉県四街道市）

木下 晴生（京都市守山町）

兵野 勉（和歌山県湯浅町）

五十嵐裕治（茨城県那珂郡）

千葉ひとみ（和歌山県橋本市）

44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21

梅実る郷を守りし民あらば神ぞ応えむ豊穰の慈雨
三山にさざ波のごと風薫る神の息吹の永久に尊し
何にすぎる命か真夜を覚めて聴く木の芽おろしの熊野の湯宿
遠山に雪移りゆくをいぶかしむ熊野に紙を漉く君がある
杉透きてひかる童子の青く立つしんと五月のさみどりの羊歯
ひかり遠く杉の木立ちの熊野詣同行二人の鈴の音遠く
日向ほこの翁の背にゆるやかな時の重なる古道を歩く
空白の心埋めゆく妻恋ひの鹿が啼くなり熊野青山
大雲も小雲も老いて超えられじ思い翼に翔る大空
春の闇巡り巡るや女人道唯一心に祈り重ねつ
み熊野の補陀落渡海に続く道藍色深き夕風の家
沖からの風待つといふ熊野灘「除福」の像のわずかに笑ます
熊野道犬は信号ある歩道斜め横断黒楊羽行く
冬瀑を借景として札所あり乾ぶ柱は冬陽を集む
ウイルスは世界をめぐり残酷よ癒しの熊野むき手をあはす
「行こかよう」姦し友と熊野路に紀州訛りが多国語と混じる
あかりがひとつまたひとつ点りゆく僅か十二戸の晩秋の里
熊野の杜惑はされずに守りきし人ら報はれ世界遺産なり
落水は百三十余メートル那智の滝生れくるイオンに心澄みゆく
半歩ずつ熊野古道の馬殺し杉の落葉をきつきつと踏む
前方の林の奥に鬼火消ゆ石仏続く果無峠
ふるさとに帰りし友は那智山の大滝あふぐ裾に住みをり
杖二本たよりに古道の根みちゆく木立のあひに抜くる青空
初任地へ送り帰途なり夫と聞く那智の滝つ瀬音楽み互る

貞住 昌彦（東京都新宿区）

森元 輝彦（山口県周南市）

森元 英子（山口県周南市）

原 ひろし（大分県国東市）

岡本炎弥子（大阪府泉佐野市）

杉本 静子（和歌山県海南市）

妻木伊佐子（和歌山県海南市）

大沼二三枝（山形県鶴岡市）

山本 明（千葉県市川市）

高岡 淳子（和歌山県和歌山市）

川久保早苗（和歌山県和歌山市）

68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45

娘の赴任御熊野親し引き寄する明日はお燈祭りぞ訪ふかと夫が
石段を熊野の闇へ根の国へくだる真名井にいのち涌きいず
湯の峰の槇の湯舟のあづまの料理はすこし硫黄が匂う
錦秋の平安衣装に静しづと大門坂に満ちたる雅び
日の射せる熊野古道に幾世なる落葉の嵩の薫り輝く
断崖に川鵜の群れる熊野灘日の没る方へひと向きにをり
空と海ひと色となす群青に列抜き立てる橋杭の岩
小辺路来て見る伝説の石仏は悲話にあれども頬笑むばかり
蜘蛛の糸肩から肩へ渡しゆれ悲話の石仏並び笑む道
わが家は大阪平野杭全郷隈無き聖地熊野おぼほ
あらまほしくすしきちからみくまのの新型コロナナしづめるちから
包まれしマイクロ飛沫神様のヴェールのごとき那智の滝壺
永遠の欠片を生きて川又の滝の崖なる滴りを飲む
み熊野の山を駆けゆく雲の影窓辺の席にコーヒーを待つ
万物を熊野の森にしずめ込みスーパームーンは連山照らす
風と波太古の世でも高波妻そびえる窟に家内を拝む
手水舎の龍か獺かは判らぬが天地の交ぐいを想いてはやる
ただならぬ静寂に座す二つ碑に呼吸は神代大斎原の
神の倉易く追い抜く慣れた脚物見の若さ日参に惨敗
残照のてぶくろ片手道端に土の色帯ぶ祈りのかたち
新型コロナナに弄ばれし身と心大斎原の誌面を旅する
目を瞑り何も思わず立ち尽す熊野古道に心澄みゆく
古きより一生一度の旅なりき「蟻の熊野の詣」というは
熊野道苔むす地蔵に寄り添いて百合の一輪ひっそりと咲く

木下 正博 (和歌山県白浜町)

梶本 洋子 (和歌山県岩出市)

野入 博史 (和歌山県和歌山市)

西野 猛 (大阪府大阪市)

龍田 早苗 (和歌山県田辺市)

菱田 清行 (大阪府和泉市)

宮地 浩美 (大阪府和泉市)

木村いく子 (和歌山県かつらぎ町)

松田 容典 (和歌山県和歌山市)

69 70 71 72 73 74 75

平安の昔もかくや市女笠若葉の古道登りゆく見ゆ
市女笠直垂纏い女御らの熊野古道を登りゆく見ゆ
「音無茶」摘みて神に奉る本宮大社の新茶祭に
漆黒の果無山上ひとつぶの星が生まれて密か鼓動す
熊野の火一つ残ったやうな星果無山の上に瞬く
熊野の地大鳥居の上群鳥命燃やせと舞鳴く夕闇
生きてこそ流れて落ちた涙だと繁吹で笑う那智の大滝

短歌

— 高野 —

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

お建夜の一の橋から御廟まで続く行列提灯明かり
女人堂八葉蓮華の峰辿り巡り巡りき女人の高野
杉落葉たく高野山にほのほのと香煙となり木の間ただよふ
戦国の世を戦ひし武將たち共に眠れり高野奥津城
雨の日に河野裕子が来てたんだ高野のしづく鳩の句碑見て
さえかへる春は名のみ早春賦如来弘法常永久が魂
原爆の日ぞ人としてあらがへよ高野の水に心ゆくまで
故郷の墓じまいせしその足で高野に参る秋寒の日に
町石の番号減るを楽しみに高野を上る妻に叱咤されつつ
厠とは言わずに「高野山へ行く」今は昔の薦たけし叔母
戸棚には高野豆腐を切らさないあと一品に頼りになるの

浦木 逸子（和歌山県橋本市）

末宗 凌（福岡県古賀市）

原 ひろし（大分県国東市）

杉本 静子（和歌山県海南市）

浦木 逸子（和歌山県橋本市）

福岡 悟（東京都八王子市）

上田 康彦（千葉県四街道市）

中尾 加代（和歌山県和歌山市）

35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12

高野からしゃくなげ街道湯浅まで高校生の長距離徒行
仰ぎ見る高野の峰を遙拝し女人も巡る町石道を
杉木立また杉木立杉木立深雪も温し大師が祈り
霧深き千古不易の杉木立大師が祈り天に地にあり
異国語の飛び交う参道を車椅子娘に押されつつ米寿の高野
片仮名の石童丸の絵解本読書好みの芽生えとなりき
町石道百八十町に息きらし大門仰げば身は宙に浮く
矢立すぎ袈裟掛け岩は静かなり町石道はタイムスリップ
小休止茶飲み汗拭きまた歩む抜かれ抜きつつ参詣登山
山上に待てる大師の呼ぶ声にまた歩一歩で遂に大門
暁に勤行の声届していつか身内に生命興せり
幾千万祈りの道を我も又踏みしめ歩む夕日背負いて
高野では静かな世界広がりを一呼吸ごと弘法の香が
寒中の高野に男女水ごりす雪しんと身体水に澄む
奥の院までへとライトアップせし風情を称ふる外来客は
そぼ降れば霊峰高野はいにしへの余韻を湛へけぶれる車道
ふりむけど西行おらずかげろうの天野の里にさくら散るなり
ぜいたくなお天気ですね〈天の里〉の志功の女仏すこし斜視かな
御廟へと続く参道森閑と千二百年の地霊いきづく
日常の外にあるもの千二百年得たる高野の深き静寂
「よく生きた迷ふことなし」空海の笑ふ手が抱く高野の安堵
近く人の御霊が映すまぼろしか苔むす碑影をゆらす木洩れ日
遍路人持つ杖に見ゆ高野の字長き祈念の旅路を想う
空海の誕生寺にとぶ揚羽蝶高野に向うか二頭もつれつつ

兵野	勉	(和歌山県湯浅町)
貞住	昌彦	(東京都新宿区)
倉本	郁子	(和歌山県海南市)
北川	民子	(大阪府阪南市)
川久保	早苗	(和歌山県和歌山市)
野村	貞江	(山口県周南市)
垂井	邦夫	(和歌山県和歌山市)
高岡	淳子	(和歌山県和歌山市)
木下	正博	(和歌山県白浜町)
森	悦子	(和歌山県海南市)
野入	博史	(和歌山県和歌山市)
寒川	靖子	(香川県丸亀市)

59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36

二度となき縁に遇いて高野山大学の舞台コーラスに立つ
「高野山行つて来ました」見覚えの文字添えられて焼餅置かる
空を分けあいて杉松の育ちおりその下に寝て点眼をする
さみどりの柿の里抜けつづら折る道は高野へ高野へ曲る
百度踏む素足冷たき石畳ひとりに広し夜の御廟前
天空の飛天奏づる楽ならむ風鐸美し大塔仰ぐ
奥宮の石は軽々上げたのにわが奥方は重く上がらぬ
高野色紅葉と六角柿に雪俺の好みは丹色に桜
仰ぎ見る歩みの先の正殿の清し丹生姫高野へ手招く
乳型の可愛い板に祈り知る幸くませ生命ただひたすらに
菩提寺のつきやまを背に舌つづみ色どりゆかしき精進料理
花ふぶく金剛峯寺まへ閑散とコロナ終焉ひとと祈りぬ
苺狩り下調べして出合う夏今日は高野へ護摩壇山へ
黒染めの衣を纏い大門を高野聖の下りゆく見ゆ
赤衣と黄色の袈裟を身に纏い高野聖の読経続けり
目の醒める赤衣纏いて読経せる若き僧らの頭光れり
雪笠を被けて祈る僧のごと奥の院へと並める灯籠
身を清め口を慎しみ心するコロナ禍の世の三密加持と
奥の院いまだ大師の在すと言ふ青葉の闇に息衝く命
先達に交じりて法会する中に未だあどけなき学生の僧
杉木立白き夏雲纏ひたり石畳行く法衣の如く
散華まき青葉祭りの輿がゆく善男善女群がりながら
奥の院消へることなき輝きは貧女お照の切なき一燈
並びいる二ツ鳥居を通り過ぎ祈りの聖道高野へ続く

森田瑠璃子（和歌山県海南市）

龍田 早苗（和歌山県田辺市）

林 昌子（福岡県大牟田市）

菱田 清行（大阪府和泉市）

宮地 浩美（大阪府和泉市）

木村いく子（和歌山県かつらぎ町）

松田 容典（和歌山県和歌山市）

河田 琴栄（静岡県浜松市）

松山 康子（和歌山県橋本市）

やまなみ集



選者詠草

木下敦子

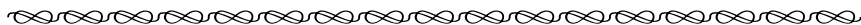
勾玉の形にも似てひよんの笛
粉を干す布継ぎ当てし粗筵



選者詠草

桑島啓司

純白の睡蓮われも目覚めよし
蓮の葉の風に畳まれ広げられ



〔熊野〕大賞

神社本庁統理賞

和歌山県海南市 前田 長徳

乾坤のひかり一筋神の瀧

和歌山県神社庁長賞

和歌山県海南市 澤 禎宣

補陀落の果ての果てまで霞みけり

〔熊野〕優秀賞

熊野本宮大社賞

和歌山県岩出市 梶本 洋子

熊野路の旅籠の名残桐の花

熊野速玉大社賞

和歌山県有田市 岸井 照代

熊野路の峠茶屋跡小鳥来る

熊野那智大社賞

鳥取県米子市 岩水 節子

道をしへ熊野比丘尼の使ひとも

〔熊野〕松代王子賞

和歌山県かつらぎ町 野口 城

根の国の闇に啼き交ふ仏法僧

大阪府泉南市 板敷 清光

熊野路やお喋り好きの蟻の群れ

和歌山県紀の川市 辻本 俊子

み熊野の蟻の行き交ふ峠道

京都府京都市 林 游美子

五月闇熊野古道の太古めき

和歌山県紀の川市 中島 紀生

瀑音のなかに囀り那智詣

〔熊野〕選者賞

桑島 啓司 選

和歌山県海南市 前田 長徳

乾坤のひかり一筋神の瀧

木下 敦子 選

和歌山県海南市 澤 禎宣

補陀落の果ての果てまで霞みけり

〔高野〕大賞

神社本庁統理賞

和歌山県和歌山市 田嶋 節子

鐘の音の流れて涼し高野山

和歌山県神社庁長賞

愛知県日進市 嶋 良二

初燕壇上加藍かすめ飛ぶ

〈高野〉優秀賞

高野山金剛峯寺賞

和歌山県岩出市 土江 祥元

結願の声明に和す法師蟬

丹生都比売神社賞

和歌山県和歌山市 笠原 祐子

下界へと下る速さや花筏

丹生官省符神社賞

和歌山県有田市 中谷 恭子

涅槃非食僧も信徒も立食す

〈高野〉金剛院賞

野地藏の袈裟となりたる蔦紅葉

京都府福知山市 前崎とし江

和歌山県和歌山市 鳥本もとり

蓮の実飛ぶ思ふがままにならぬ世へ

和歌山県岩出市 梶本 洋子

夕遍路鈴に高野の風を呼ぶ

和歌山県和歌山市 中浴 智美

涼しさや厠掃除の修行僧

新潟県新潟市 平田由香里

白蝶や傘寿の母と高野山

〈高野〉選者賞

桑島 啓司 選
和歌山県和歌山市 笠原 祐子

下界へと下る速さや花筏

木下 敦子 選
和歌山県和歌山市 田嶋 節子

鐘の音の流れて涼し高野山

俳句

— 熊野 —

- | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|----------------|---------------|-----------------|--------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 遙拝す白布のごとき那智の滝 | 万緑や古道の嶺々の横たふる | 乾坤のひかり一筋神の瀧 | 留守居する宮司が氣迫神無月 | 嚙りをいくつ聞き分け赤木越 | 桃源郷ひるねの茶屋の桃の花 | 取越や大雲小雲鳥渡る | 初場所の賜杯力士の涙かな | 参道に誘う如く笹鳴けり | 石畳光る参道去年の雪 | 参道を駆け降る火の粉去年の雪 | 根の国の闇に啼き交ふ仏法僧 | 釣瓶落しに熊野の海の灯色かな |
| | 楠見恵美子（和歌山県和歌山市） | 前田 長徳（和歌山県海南市） | | 貞住 昌彦（東京都新宿区） | | 吾 亦 紅（大分県国東市） | | | | 亀井 洋（和歌山県新宮市） | | 野口 城（和歌山県かつらぎ町） |
| 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 |
| み熊野の蟻の行き交ふ峠道 | ダルへ置く一塊の飯道おぼろ | ハンカチを熊野古道に忘れけり | 新樹燃ゆ曲線描く熊野川 | 熊野路の峠茶屋跡小鳥来る | 熊野道に移動図書館夏休み | 青春のなき吾にまた終戦日 | 母の日や母となりたる子を祝ふ | 鷹鳩に化して天空そぞろ旅 | 貧富の差われあらがへり遍路旅 | 水涸る、熊野詣や御輿ゆく | 弁慶に鯨哮えたり熊野灘 | 春水に喉を潤し古道を行く |
| | | 辻本 俊子（和歌山県紀の川市） | | | 岸井 照代（和歌山県有田市） | | 原見 慶子（和歌山県日高川町） | | 福岡 悟（東京都八王子市） | | 芳賀 理音（神奈川県横浜市） | |

- 27 郷愁や湯の峰の湯の小豆粥 土江 祥元 (和歌山県岩出市)
 28 輿駟けの山又山に山桜 笠原 祐子 (和歌山県和歌山市)
 29 袂川越えて熊野の初燕 火祭のほひ胸の灯燃えたたず 櫻井 俊治 (埼玉県春日部市)
 30 滝行の唱える呪文天衝きぬ 崖に立つ素足の行者血の滲む 梶本 洋子 (和歌山県岩出市)
 31 熊野路の旅籠の名残桐の花 那智の滝仰ぎ寡黙の人となり 上野山博子 (和歌山県有田市)
 32 潮騒や熊野古道に秋の声 熊楠の遺品の展示柿若葉 板敷 清光 (大阪府泉南市)
 33 鹿ヶ瀬の苔むすばかり無縁塚 熊野路やお喋り好きの蟻の群れ 山本はじめ (和歌山県和歌山市)
 34 神の住む山の裾借り豆の花 修験者の法螺を鳴らして青葉山 林 游美子 (京都府京都市)
 35 熊野古道一千年の青葉闇
- 42 五月闇熊野古道の太古めき 嶋 良二 (愛知県日進市)
 43 獅子岩や名月咥へ風を裂く 源流は雪解の水や那智の滝 澤 禎宣 (和歌山県海南市)
 44 参道は滝の御光の苔の道 補陀落の果ての果てまで霞みけり 平田由香里 (新潟県新潟市)
 45 道しるべ熊野の太文字蝶止まる 山鳥を待たせ胎内くぐりゆく 小池 成功 (千葉県佐倉市)
 46 満願の汗の髭面視野の先 トンボ釣り一步後れて都会の子 中島 紀生 (和歌山県紀の川市)
 47 熊楠の足音軽し草朧 瀑音のなかに囀り那智詣 岩水 節子 (鳥取県米子市)
 48 道をしへ熊野比丘尼の使ひとも 神苑は大き鳥籠囀れり

俳句

— 高野 —

- 11 真言の梅桃桜みな清し
貞住 昌彦（東京都新宿区）
- 10 霊場の苔むす香り雨あがり
村山 守（神奈川県平塚市）
- 9 吾を照らすチンダルの先仏の掌
- 8 子安地藏抱く子と同じ雪帽子
- 7 野地藏の袈裟となりたる葛紅葉
- 6 八咫鳥迎ふ球児の初詣
- 5 極楽橋渡れば秘境高野冷え
- 4 点し継ぐ万の灯籠露けしや
前崎とし江（京都府福知山市）
- 3 冬ざれや空海錫杖鳴らしゆく
野口 城（和歌山県かつらぎ町）
- 2 厄払ひ柴燈護摩の春を呼ぶ
- 1 春の山開く柴燈火の祭り
吾 亦 紅（大分県国東市）
- 12 空蟬に宵の梵鐘満ちにけり
前田 長徳（和歌山県海南市）
- 13 澎湃と芽吹く高野の坊泊り
一山の月のくまなき軒氷柱
田嶋 節子（和歌山県和歌山市）
- 14 大門に霧の流れて高野山
- 15 霊山の枝垂桜の紅濃ゆし
- 16 満願の杖を休めて花仰ぐ
- 17 鐘の音の流れて涼し高野山
芳賀 理音（神奈川県横浜市）
- 18 空海も荒れて雪崩の高野口
- 19 終幕の平家の姫や雪女郎
福岡 悟（東京都八王子市）
- 20 うつしみの空海竜天に昇る
- 21 都鳥極楽橋に立つを知る

- 下村ツヤ子（和歌山県かつらぎ町）
 23 玉川の一心不乱寒水行
 24 彼岸会や先祖の顔を知らぬ子ら
 鳥本もとり（和歌山県和歌山市）
 25 尻光からせ時代祭の馬が過ぐ
 26 蓮の実飛ぶ思ふがままにならぬ世へ
 岡本炎弥子（大阪府泉佐野市）
 27 香煙へ御手ひらひら遍路かな
 28 大師在す奥の高野の春遅遅と
 29 人訪はぬ坊への小径苔の花
 30 真新し輪袈裟ひらひら春の風
 土江 祥元（和歌山県岩出市）
 31 結願の声明に和す法師蟬
 32 燭十万揺らぐ高野に盆の月
 御前 弘子（和歌山県和歌山市）
 33 祖父判衣百年前の高野の夏
 34 セピア色の父・母胸に正御影供
 梶本 洋子（和歌山県岩出市）
 35 夕遍路鈴に高野の風を呼ぶ
 36 結界にやをら紐解く遍路笠

 松本 敏子（大阪府阪南市）
 37 写経紙に経文写し風薫る
 38 山清水高野の玉川湧き出づる
 中浴 智美（和歌山県和歌山市）
 39 学僧の勤行のこゑ雲の峰
 40 涼しさや厠掃除の修行僧
 小池 成功（千葉県佐倉市）
 41 タづくや水張る棚田明日も晴
 42 高野より風をもらひて雁渡る
 中谷 恭子（和歌山県有田市）
 43 涅槃非食僧も信徒も立食す
 44 白み来し結界涅槃通夜果つる
 板敷 清光（大阪府泉南市）
 45 ありがとう言はずにごめん墓洗ふ
 46 散骨へいずれ咲くはず菊植ゑて
 嶋 良二（愛知県日進市）
 47 初燕壇上加藍かすめ飛ぶ
 48 ちちろ鳴く祈りの深き女人堂
 澤 禎宣（和歌山県海南市）
 49 異国語を流暢に話す修行僧

- 50 声明の響くお山の月朧
平田由香里（新潟県新潟市）
- 51 蛇腹路照葉の影を映したる
52 白蝶や傘寿の母と高野山
花月 大師（東京都板橋区）
- 53 一線の杉の隙より涅槃雪
54 女人道休める四肢に苔青し
中島 紀生（和歌山県紀の川市）
- 55 高野からゆるりと下る花筏
56 結願の合掌長き遍路かな
岩水 節子（鳥取県米子市）
- 57 木食の通ひし高野蟬しぐれ
58 天心へ月を押し揚げ高野杉
楠見恵美子（和歌山県和歌山市）
- 59 星近き高野に泊す夏期講座
60 徐徐の差しくる霊山の秋夕焼
笠原 祐子（和歌山県和歌山市）
- 61 下界へと下る速さや花筏
62 白杖の巡礼にいま花吹雪



風鈴まつり〔短歌・俳句会〕募集

短冊に短歌や俳句が書かれた風鈴が、春日神社拝殿一面に吊るされ、短歌・俳句などの芸能上達祈願や色々な願いごとが祈願されるまつりです。

〔応募要項〕

- 応募締切 令和二年八月五日頃迄にお願いします。
- 応募方法 風鈴の短冊に作品と氏名を書き事務局宛に風鈴と共に郵送下さい。
- 展示期間 八月一日～八月十五日
- 展示場所 春日神社拝殿

今年の夏も多くのの方々のご参加を賜わり度く、皆々様のご出品を心よりお待ちしております。

出品者全員に短歌・俳句作品集「風鈴まつり」を贈呈。

事務局 〒六四二一〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七一

春日神社社務所（三上）宛

電話 〇七三一四八三一七五四七

第二十三回

春日万葉の森歌垣（短歌・俳句）大会募集

大会要項

- 募集内容 四季を通じた作品で内容は自由。（未発表のもの）
- 応募規定 用紙（A4）右半分に作品
二組（二首又は二句）＝三組まで可
左半分に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年令、性別、電話番号を楷書で記入。
令和三年二月～四月末日（当日消印有効）
二首又は二句（一組）一、〇〇〇円
現金書留または郵便定額小為替で作品とともに同封。（切手不可）
- 応募先 〒六四二一〇〇二二
和歌山県海南市大野中五七七一
（春日神社社務所内 三上 宛）
「春日万葉の森歌垣大会」事務局まで。
☎〇七三一四八三一七五四七
- 賞 大賞（短歌俳句各一名）：賞状＋楯
優秀賞（短歌俳句各三名）：賞状＋楯
人磨賞・一入子賞：賞状
（作品集「神奈備」一冊を贈呈 全作品集収録）
（短歌の部） 石井 和子、井谷まきみち、唐津麻貴子
（俳句の部） 笠野 千居、小阪 南枝、鳥井 保和
（五十音順）
- 発 表 右記の賞とは別に選者賞有り
風鈴まつり（八月一日～十五日）にて発表。受賞者に通知します。応募者全員に作品集「神奈備」を贈呈します。

第十六回

「熊野・高野」短歌・俳句大会作品募集

●募集内容

熊野の部（熊野古道関連）〓六点至まで。
高野の部（高野山、高野街道関連）〓六点至まで。
（合計十二点まで。未発表作品。楷書で丁寧。）

原稿用紙または便箋に住所・氏名、電話番号を明記。
二点（一組）千円（作品に同封。切手不可。）

●出点料

令和三年三月〓五月末日（当日消印有効）

●応募先

和歌山県海南市大野中五七七―一（春日神社内）

「熊野・高野」短歌・俳句大会係
☎〇七三―四八三―七五四七

●選者

（短歌の部） 水本 光・杉谷睦生
（俳句の部） 桑島啓司・木下敦子

●賞

【熊野の部】 神社本庁統理賞〓一名
和歌山県神社庁長賞〓一名
熊野本宮大社賞〓各一名
熊野速玉大社賞〓各一名
熊野那智大社賞〓各一名
松代王子賞〓各若干名
神社本庁統理賞〓一名

【高野の部】

和歌山県神社庁長賞〓一名
高野山金剛峯寺賞〓各一名
丹生都比売神社賞〓各一名
丹生官省符神社賞〓各一名
金剛院賞〓各若干名

●発表

風鈴まつり（八月一日〓十五日）にて発表。受賞者に通知します。応募者全員に作品集「やまなみ参詣」を贈呈します。（表彰式は八月一日）

※熊野の部と高野の部を同じ用紙に書かないようにお願いします。

今年は新型コロナウイルスという疫病の流行により誠に残念ながら表彰式並びに邦楽の演奏などが取りやめにさせていただきました。皆様にはご了承賜り慶く存じます。入賞の皆様には賞状等を郵送にてお届け致します。

また、「風鈴まつり」は例年のように開催致しますので、たくさんのご応募をおまちしております。

この作品集は、東京の国立国会図書館・日本現代詩歌文学館並びに和歌山県立図書館、同紀南分館に納本されます。

また、全作品は春日神社のホームページでもご覧いただけます。

<http://kasuga-kainan.com/>

令和二年八月一日発行

海南古道まつり

第十五回「熊野・高野」短歌・俳句大会

【事務局】 千六四二―〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七―一

春日神社社務所内（三上）

電話〇七三（四八三）七五四七

平安衣装を 着てみませんか!

春日神社で平安衣装が無料で貸し出されます。

平安衣装を身にまとい、当時に思いをはせながら散策したり、
写真撮影などをお楽しみください。

(七五三詣・十三参りにもご利用できます。)

とき **11/7 土・8 日**

午後**1時30分**～**4時**まで(雨天中止)

ところ **春日神社**

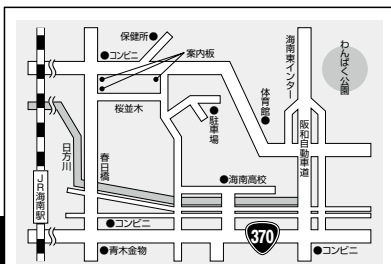
- お申し込み不要
- 参加費無料
- 男女(大人用・子ども用有)

カメラで
写そう!!

※ご都合の良い時間に皆様お誘い合わせの上お越しください。

※カメラは各自でご持参ください。

※雨天の場合は中止とさせていただきます。



春日神社へは
●阪和自動車道・海南東インター降東へ3分
●JR海南駅徒歩15分
●JR海南駅オレンジバス「大野中」徒歩5分

海南古道まつり



七五三詣・十三参り
にもご利用できます。

家族全員で平安衣装を身にまとい
七五三詣・十三参り。



十三参りとは…

13才の年頃は、身体的にも精神的にも
変化する大人になる入口です。めでたい
この時のお祝いと無事に成長するよう
にと祈るまつりです。

お問い合わせ **春日神社**

海南市大野中577-1

TEL.073-483-7547